

当院では、保管する下記の残余検体・診療情報等を下記研究機関に対して提供しています。  
研究概要は以下のとおりです。

#### 【研究課題名】

臨床検体から分離された侵襲性感染症原因菌の分子疫学解析と薬剤耐性化の経年的推移

#### 【目的】

微生物検査室を有する中規模以上の医療機関等において、機器による質量分析法による菌種・同定技術の普及、簡便な菌種同定法の開発が進んでいますが、いずれも感度ならびに特異度に限界がみられます。研究機関の東京医科大学微生物学分野の研究室では、ヒトの予後に影響する病原性の高い細菌・ウイルスなどに関して遺伝子レベルでその詳細を明らかにできる検査方法を確立しています。そのため、全国各地の医療機関から侵襲性重症細菌感染症から分離された病原細菌について検査依頼を受ける機会が多く、この解析結果を学会発表や論文投稿として公表する可能性があるため、研究として実施しています。

#### 【対象】

当院において細菌感染症に対して検査（血液、髄液、胸水など）を実施した方のうち、当院では実施できない詳細な解析が必要と担当医師が判断した場合

#### 【方法】

診療のために採取した検査検体（血液、髄液、胸水など）および診療情報を利用します。検査検体から菌株を分離し、その菌株を提出します。診療情報は診療記録より担当者が情報を収集し、調査票へ記載します。菌株及び調査票は研究機関へ郵送し、保管・解析されます。この研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがあります。また、解析結果は担当者及び担当医師へ報告されます。

#### 【個人情報の取り扱い】

収集した試料・情報は、特定の個人を識別することができない状態で利用しますので、お名前などの情報が外部に漏れることはありません。

#### 【利用する試料・情報】

診療記録（年齢、性別、入院日、受診診療科、細菌感染の推定疾患）

検査検体：血液、髄液、胸水など（過去に診断目的で採取されたもの）

利用開始日：2024年6月～

#### 【試料・情報の取得方法】

診療情報：診療の過程で得られた情報、試料：診断目的で採取された検査検体

#### 【研究期間】

倫理委員会の承認が得られてから2026年3月31日まで

#### 【研究代表者】

東京医科大学 微生物検査学分野 中村 茂樹

#### 【当院の責任者】

横浜国立市民病院 検査・輸血部 小菅 葉子

#### 【試料・情報の提供を行う機関情報】

横浜国立市民病院 病院長 中澤 明尋

#### 【連絡先】

横浜国立市民病院 〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町1番1号

電話 045-316-4580（病院代表） 検査・輸血部 小菅 葉子

この研究の対象となる方またはその代理の方で本研究への参加を希望されない方は、上記の連絡先へお申し出ください。その場合でも、対象となる方に不利益が生じることはありません。

また、この研究の対象となる方またはその代理の方は、本研究の詳細（研究計画書及び研究方法に関する資料）を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手・閲覧することができますので、ご希望の方はお申し出ください。